

令和元年度の財政運営検討W・Gの検討事項

資料2

| 項目 | 令和元年度検討事項 | これまでの検討結果 | 令和2年度主な検討事項 |
|--------------------|---|--|---|
| 保険料率 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 府全体の共通公費の範囲の検討 <ul style="list-style-type: none"> ①過年度の保険料収納見込み(一般分) ②保険者努力支援制度(都道府県分)の活用 ③府独自インセンティブの活用 Ⅰ 標準保険料率算定に用いる被保険者数・所得の推計方法 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 府全体の共通公費の範囲の検討 <ul style="list-style-type: none"> ①過年度の保険料収納見込み(一般分) <ul style="list-style-type: none"> ・過去3か年の平均収納額の65%を基本とし、変動率(=直近値の平成30年度の調定額÷平成28～平成30年度調定額の平均値)を乗じた額を納付金に設定(今年度のみ変動率100%を上限(来年度検討))。 ②保険者努力支援制度(都道府県分) <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保険料引き下げ財源として活用。 ③府独自インセンティブの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・保険者努力支援制度(市町村分)の一人当たり最低交付ラインを限度に、一部を引き下げ財源に活用。 Ⅰ 被保険者数・所得の推計方法 令和元年度推計結果の分析及び令和2年度国提示推計方法の妥当性(コーホート要因法含む)を踏まえ、国が示す推計方法のとおり実施。 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 府全体の共通公費の範囲の検討 <ul style="list-style-type: none"> ①過年度の保険料収納見込み(一般分) ②保険者努力支援制度(都道府県分) |
| 保険料減免・軽減 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 多子世帯減免 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 多子減免 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 国における議論内容や検討状況を踏まえ対応を検証。 |
| 標準収納率 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 令和元年度においては直近の収納率実績や、保険料抑制効果を勘案し、算定の基となる値を平成27～29年度実績に変更し、諸条件を設定 | <p>直近の収納率実績を勘案し、算定の基となる値を平成28～30年度実績に変更するとともに、設定条件を以下のとおり変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 規模別基準収納率 <ul style="list-style-type: none"> 規模別平均収納率▲1% Ⅰ インセンティブ <ul style="list-style-type: none"> 規模別基準収納率を上回っている値の1/2 Ⅰ 努力分 <ul style="list-style-type: none"> 実収納率+0.5% | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 令和元年度決算状況を踏まえた検証 |
| 保健事業(算定条件に関する事項のみ) | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 独自事業分の財源は、標準保険料率(事業費納付金の対象経費)で確保するものとする。対象経費は、府保険料総額(医療分)の5%を保健事業分として、事業費納付金の対象となる保健事業費(共通分)を除く部分を独自事業分としている。 | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 独自事業分の財源のあり方について検討 <p>令和2年度については、標準保険料率で賄う対象経費は、府保険料総額(医療分)の3.5%(被保険者数10万人以上の保険者)、5.0%(その他の保険者)を保健事業分の上限として、事業費納付金の対象となる保健事業費(共通分)を除く部分を独自事業分とする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 独自事業分の財源の在り方について検討 |